

千枚田を守り抜いた「偉大なる先人たち」への鎮魂の灯火

お田植感謝の夕べ

灯そう千枚田

開催日時 平成30年6月2日(土)午後7時

主催 鞍掛山麓千枚田保存会
共催 連谷地区各種団体・地域の皆さん
協力 愛知県ふるさと水と土指導員

地域の要として棚田保全に邁進する耕作者・地域の皆さんとともに田植も終わった一夕を、呑み、喰い、語り合う機会を設けました。

沿道に1500本のロウソクを灯し、幻想的な世界を醸しだします。

五平餅やしし汁、鳥長の皮肝もあるでのん、大勢来ておくれんや。

なお、この催しは参加者の協力金で賄われています。

四谷の

千枚田だより



第177号



四月二十二日、第四回奥三河パワートレイルが開催された。四谷の千枚田ふれあい広場がエイドステーションに指定され、保存会が母体となり、地域住民四十五名の協力を仰ぎ、湧水天日干しの棚田米「ミネアサヒ」のおにぎり、千枚田を荒らすイノシシを捕獲し、資源活用としたシシ汁を大はそり五釜用意し、ランナー、家族、スタッフ全員に精一杯の「おもてなし」をした。また、特別メニューとして千枚田ならではの「鳥長のかわきも」を提供。全国各地から参加したランナーや家族、応援に駆け付けた面々から「世の中にこんな旨いものがあっただかん」と聞かれ、「わしんとうは、牛やマダロより、やつぱり鳥長のかわきもが一番」と屈託なく返答していた。大会日を天気予報でみると二十九℃と予報、ランナーにとっては過酷な条件で、そのままだと何人もぶっ倒れると踏んで、前日に愛知県第一号の小水力発電装置横にシャワーを設置した。天気予報は珍しく的中、汗だくの参加ランナーのほぼ百割がシャワーを浴び、生き返ったと喜ばれた。

このエイドステーションでは到着するランナーの出身県、選手名を



励ましと共にアナウンスし、応援、おもてなしに華を添えた。ランナー六百十一人(エントリー七百八人)参加。完走者二百六十四人(完走率約四十三割)と過酷なレースであった。

大会前の四月十六日、(株)横浜ゴム新城工場は地元貢献活動の一環として大会に先立ち、社員二十名にエイドステーションのふれあい広場から仏坂までの市道、県道の清掃活動を実施していただいた。感謝

鳳来寺小学校野外学習

四月十七日に五年生十一名が千枚田で田おこしをしました。美しい千枚田の風景の中に、こいのぼりが泳いでいました。米作りでお世話になる小山さんとの出会いもありました。硬くなった田んぼを掘り起こしたり、生き物と触れ合ったりして楽しい時間を過ごしました。これらの米作りが、本当に楽しみです。

五月十一日に代かき、田植えは十七日頃を予定しています。
学校HPより



田植え

五月十日、豊橋調理製菓専門学校(二十二名)の田植えが行われた。生徒たちは将来、食のプロを目指す一環として四谷の千枚田で田植えの原点であるコメの大切さを学びます。



仮設トイレの設置

千枚田入口近くに五月一日から二ヶ月間、仮設トイレを設置した。(ふるさと指導員活動支援) 掃除が大変だむんで、なるたけ汚さないで、おくれんのか

保存会総会

五月十二日(土)、鞍掛山麓千枚田保存会総会が連谷会館で開かれた。

詳細は次号に掲載の予定です。

環境整備活動

五月二十六日(土)、保存会は「灯そう千枚田」を視野に恒例の草刈り作業を実施。なお、午後は公民館活動に合流し、グラウンドゴルフ、校庭周辺の環境整備に参加します。皆さんの快いご協力をお願いします。

ヤマアカガエルの産卵 (経年変化)

平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
1月15日	1月19日	1月30日	2月1日
1月27日	1月30日	2月5日	2月10日
2月23日		2月20日	3月1日
3月8日		2月21日	3月5日

本種は春の最初の雨から産卵すると云われているが、最近では気象変化か産卵が早まっている

近況

・五月六日、JA愛知東こども農学校(五十七人)の田植えが高橋庄一(顧問)の指導で行われた。
・五月十一日、地元鳳来寺小学校の

代かきが行われた。

・五月十九日、県立新城高校農業クラブの田植えが原田英史(理事)の指導で行われる。

・五月二十四日、市立鳳来中部小学校は恒例の新城市の三宝を学ぶと題して千枚田を訪れる。(舜対応)



・六月十日、市立鳳来寺山自然科学博物館主催の千枚田生きもの観察会が行われる。

行 平成三十年五月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二